

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ゆにば		公表日		2026年 2月 22日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1	こどもの数や活動内容に応じて活動室や学習室を使い分け、空間を有効に活用しています。	活動が重なる時間帯にはスペースに余裕が少なくなる場合があるため、引き続き活動内容や時間帯の調整を検討していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		利用状況を踏まえながら、こども一人ひとりに目が行き届く体制を意識しています。	時間帯や活動内容によって負担感が生じる場合もあるため、今後も利用状況を確認しながら配置の工夫を継続していきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		活動内容に応じて場所を使い分け、視覚的な表示等を用いながら、こどもにとって分かりやすい環境づくりを行っています。	設備や構造上の制約もあるため、利用することの状況に応じて、可能な範囲で環境面の配慮や見直しを行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		日常的な清掃や整理整頓を行い、清潔で心地よく過ごせる環境づくりに努めています。	活動内容や利用状況に応じて、より適した空間の使い方を引き続き意識していく必要があります。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		こどもの特性や状況に応じて、個別の部屋や場所を使用できるよう配慮しています。	利用状況によっては個別スペースの確保が難しい場合もあるため、運用面での調整を継続していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2	支援記録の確認やスタッフ間での意見交換を通じて、日々の支援における課題の共有や対応の見直しを行っています。	これらの取組をPDCAサイクルとして整理し、目標設定や振り返りの流れがより分かりやすくなるよう、進め方の検討が必要です。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者アンケートを実施し、意見や意向を把握する機会を設けています。	把握した意見を業務改善につなげていくため、内容の整理や共有方法について工夫していく必要があります。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	日々の業務の中でスタッフの意見を把握し、業務の申し送り等を通じて共有しています。	把握した意見をより明確に業務改善へ反映できるように、整理の方法を検討していきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		第三者による外部評価については、今後の検討事項として整理しています。	第三者評価は未実施のため、今後の実施方法や活用について検討していく必要があります。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		スタッフの資質向上を目的として、業務に関する研修や資料の共有を行っています。	勤務形態の違いにより参加状況に差が生じることもあるため、より参加しやすい研修の実施方法について検討していきます。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	1	事業所の支援内容を整理し、スタッフ間で確認を行いながら、支援プログラムを作成し、公表につなげています。	支援プログラムの内容について、保護者にとってより理解しやすい表現や公表方法となるよう、引き続き整理が必要です。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		日々の支援記録や保護者からの聞き取りを基にアセスメントを行い、こどものニーズに沿った個別支援計画作成に活かしています。	アセスメント内容の整理や分析の視点について、スタッフ間での共有方法を工夫し、客観性を高めていく必要があります。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		個別支援計画の作成にあたり、スタッフ間でこどもの状況や支援の方向性を共有しながら検討しています。	個別支援計画作成時の話し合いについて、スタッフ全体がより参加しやすい進め方を検討する必要があります。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		個別支援計画をスタッフ間で共有し、支援内容や関わり方を意識しながら計画に沿った支援に努めています。	個別支援計画内容を支援に反映しやすくするため、共有方法や確認の仕方について工夫が求められます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		日々の行動観察や支援記録を通して、こどもの様子や変化を把握し、支援内容の検討に活かしています。	標準化されたアセスメントツールの活用については十分とはいえず、今後の活用方法について検討が必要です。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		放課後等デイサービスガイドラインを踏まえ、本人支援や家族支援等の視点を意識しながら支援内容を整理しています。	ガイドラインに示された各支援区分との対応関係について、個別支援計画上でより明確に整理していく必要があります。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	2	活動内容についてスタッフ間で相談しながら検討し、役割分担や進め方を確認したうえで実施しています。	活動プログラムの検討について、より多くのスタッフが関われる体制づくりが今後の課題です。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	活動内容が固定化しないよう、こどもの興味や状況に応じて内容や進め方を工夫しています。	活動内容の偏りが生じないよう、計画的に内容を見直ししていく必要があります。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせながら無理のない支援を行っています。	個別活動と集団活動の組み合わせについて、こどもの状況に応じた検討をさらに重ねる必要があります。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	支援開始前に業務の申し送りを行い、その日の支援内容や役割分担についてスタッフ間で確認しています。	時間的制約により事前の打合せが簡略化される場合があるため、確認方法の工夫が必要です。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	支援終了後に業務の申し送り等を通じて、対応状況や気づいた点をスタッフ間で共有しています。	支援終了後の共有内容について、重要な気づきを整理して残す工夫が求められます。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		日々の支援について記録を残し、支援内容の把握や継続的な支援につなげています。	支援記録の書き方や内容にばらつきが見られるため、記録の視点を整理する必要があります。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的にこどもの状況を確認し、必要に応じて個別支援計画の見直しを行っています。	モニタリング結果の整理や記録のまとめ方について、より分かりやすい形にしていける必要があります。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9		放課後等デイサービスガイドラインに示されている基本活動を意識し、複数の活動を組み合わせ支援を行っています。	基本活動の位置づけが分かりにくい部分があるため、支援内容との関連を整理する必要があります。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	9		こどもが自ら選択できる場面を設け、活動への参加を通して自己決定を意識した支援を行っています。	自己選択の機会について、こどもの理解や特性に応じた提示方法を工夫していく必要があります。	
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		サービス担当者会議等において、こどもの状況を把握しているスタッフが情報共有を行っています。	情報共有の方法を引き続き検討する必要があります。
		27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		関係機関と必要に応じて連絡を取り合い、連携を意識した支援を行っています。	関係機関との連携について、より継続的な情報共有のあり方を検討していく必要があります。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校との連絡調整や情報共有について、保護者を通して対応しています。	学校との連携について、情報共有の内容や方法を整理していく必要があります。	
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		就学前に利用していた関係機関との情報共有について、可能な範囲で対応しています。	就学前の関係機関との情報共有について、連携方法の確立が今後の課題です。	
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		卒業時には、必要に応じて支援内容等の情報提供を行っています。	事前の準備や情報提供の流れを整理する必要があります。	
31		地域の児童発達支援センター等との連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		地域の児童発達支援センター等との関係を意識し、必要に応じて情報を参考にしています。	外部機関からの助言や研修の活用について、今後の取り入れ方を検討する必要があります。	
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	地域との関わりについて、こどもの状況に配慮しながら無理のない範囲で機会を設けています。	地域交流については機会が限られているため、実施方法を検討していく必要があります。	
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		協議会等の会議について、必要に応じて情報を把握し、支援の参考としています。	協議会等への関わりについて、情報収集の方法や参加のあり方を整理する必要があります。	
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日頃から保護者とこどもの様子について伝え合い、発達や課題について共通理解を図っています。	保護者との情報共有について、内容や伝え方をさらに工夫していく必要があります。	
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	家族からの相談に応じ、情報提供や助言を行うなど、家族支援につなげています。	家族支援について、体系的な取組や情報提供の方法を検討していく必要があります。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		運営規程や利用者負担等について、保護者に対して丁寧な説明を心がけています。	説明内容について、保護者にとってより分かりやすい資料や方法を工夫する必要があります。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		支援計画作成時には、こどもや保護者の意向を確認しながら内容を検討しています。	意向確認の方法について、こどもや保護者が伝えやすい環境づくりが求められます。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		放課後等デイサービス計画について説明を行い、保護者から同意を得ています。	計画説明について、理解を深めるための補足や確認の工夫が必要です。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者からの子育てに関する相談に対し、状況に応じて面談や助言を行っています。	相談対応の記録や共有について、支援に活かしやすい整理が必要です。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	1	保護者同士やきょうだい同士の関わりについて、必要に応じて配慮しています。	保護者やきょうだい同士の交流支援について、今後の取組を検討する必要があります。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情に対応する体制を整え、必要に応じて迅速な対応を行っています。	苦情対応の流れについて、保護者への周知方法をより分かりやすくする必要があります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		通信等を通じて、活動内容や連絡事項について情報発信を行っています。	情報発信について、内容や頻度を整理し、分かりやすい発信を心がける必要があります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報の取扱いについて、適切な管理を意識しながら業務を行っています。	個人情報の取扱いについて、引き続きスタッフ間での確認と周知が必要です。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		こどもや保護者との意思疎通について、状況に応じた配慮を行っています。	意思疎通や情報伝達について、こどもや保護者の状況に応じた配慮をさらに検討する必要があります。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2	地域に開かれた事業運営を意識し、可能な範囲で地域との関わりを持つよう努めています。	地域に開かれた事業運営について、実施可能な取組を整理していく必要があります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		事故防止や感染症対応等の各種マニュアルを整備し、スタッフへの周知や訓練を行っています。	訓練内容について、実際の場面を想定した形となるよう、定期的な見直しを行っていく必要があります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害時を想定した訓練や机上での確認を行っています。	BCPに基づく訓練について、継続実施と内容理解の定着を図る必要があります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		支援開始前に、服薬や健康状態について保護者から情報を確認しています。	健康情報について、更新や共有のタイミングを整理していく必要があります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		食物アレルギーについて、医師の指示書を基に対応しています。	アレルギー対応について、確認手順や情報共有の徹底が引き続き必要です。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画を作成し、安全管理を意識した支援を行っています。	安全管理の取組について、継続的な確認と見直しを行っていく必要があります。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全計画に基づく取組内容について、家族等への周知を行っています。	安全計画の内容について、家族への周知方法をさらに工夫していく必要があります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハット事例をスタッフ間で共有し、再発防止を意識した対応を行っています。	ヒヤリハット事例の整理や活用について、再発防止につながる共有方法が必要です。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		虐待防止に関する研修や周知を行い、スタッフ全体で意識を高めています。	虐待防止研修について、理解や実践につながる継続的な確認が必要です。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束に関する考え方について整理し、必要な説明を行っています。	身体拘束に関する考え方や手順について、継続的な確認と整理が必要です。	